

## 部活動の地域移行に向けた実証事業(卓球・バドミントン)

### □ 目的

- ・ 休日の学校部活動を地域クラブ活動へ移行していくため、成果や課題、運営のあり方を検証することを目的として実証事業を行いました。

### □ 実施概要

- ・ 実施期間：令和7年11月～令和8年1月(関係者間で合意が得られた休日に実施)
- ・ 実施競技：卓球(小諸東中学校卓球部の休日練習の一部を地域クラブ活動として実施)  
バドミントン(小諸東中学校、芦原中学校の希望者を対象に地域クラブ活動として実施)
- ・ 実施回数：卓球 3回、バドミントン 6回  
※ いずれもインフルエンザ流行により、当初の計画より実施回数減
- ・ 参加者数：卓球33名(1年生20名、2年生13名) バドミントン13名(1年生8名、2年生5名)
- ・ 会場：卓球＝小諸東中学校小体育館 バドミントン＝小諸市総合体育館
- ・ 指導体制：卓球＝地域指導者、卓球部顧問 バドミントン＝地域指導者(市スポーツ協会バドミントン部)
- ・ 参加対象：卓球＝小諸東中学校卓球部在籍の1・2年生希望者  
バドミントン＝小諸東中学校、芦原中学校在籍の1・2年生希望者

### □ 検証内容

- ・ 生徒の参加状況や満足度
- ・ 学校と地域指導者の役割分担と連携
- ・ 運営体制や事務上の手続き等の実務



## □ 活動のようす



マン・ツー・マンによる丁寧な技術指導



指導者による技術ポイントの説明



ラケットの持ち方・構え方の指導



笑顔も見られたゲーム形式の練習

## □ 参加者の声(アンケートより抜粋)

### 卓球クラブ生徒

・指導者が増え、1対1で技術的な指導を受けられる時間が増えました。苦手な技も分かりやすく教えてもらうことができよかったです。

### 卓球クラブ指導者(部活動顧問)

・インフルエンザの流行で必ずしも十分な検証ができずに残念。より長期間・多回数での実証が必要でしょう。大会等の参加手続きや引率を含めた運営体制などの業務分担の明確化について検討していきたいです。

### バドミントンクラブ生徒

・指導者の方々がとても温かく接してくれました。また、他校の生徒とも交流ができてよかったです。経験の有無に応じた練習により、上達を実感することができました。

### バドミントンクラブ保護者

・これまで活動の場がなかった競技に参加することができよい機会になりました。活動が週1回であったため、もう少し増やしてもらえるとありがたいです。

### バドミントンクラブ指導者

・多くの指導者が関わることで、より丁寧な指導が可能になりました。半面、本業を持ちながら運営に携わるので、部活動で行われる業務を全面的にクラブ側へ委ねられるのは負担が大きいです。

## □ 本実証事業を通して見えてきた課題

\* 本実証事業を通して、部活動の地域移行を進めていくための次のような課題が明らかになりました。

### 1 連絡や調整の窓口が分かりにくいこと

- 学校・地域クラブ(指導者)・事務局(教育委員会)のうち、どこが連絡の窓口となるのか分かりにくい場面がありました。活動時間の変更などが十分に伝わらないことへの不安も指摘されており、電話だけでなく、メール等を含めた複数の連絡手段を整える必要性が確認されました。  
また、地域クラブ側が連絡・調整業務まで担うことは負担が大きいため、役割分担を明確にすることが重要な課題となっています。

### 2 地域指導者や生徒・保護者の負担を減らす仕組み

- 地域指導者は本業の合間に活動しており、これまで学校が行ってきた事務作業をそのまま移行することは難しい状況です。大会申込、家庭への連絡、集金、引率などについて、誰がどの業務を担うのかを整理する必要性が明らかになりました。  
また、月謝を高く設定できない一方で、運営には一定の費用が必要となるため、経済的な理由で参加が難しくなる生徒が生じる可能性や、送迎を含めた保護者負担への配慮も課題として挙げられました。

### 3 指導内容や練習の進め方に関する基準づくり

- 指導者によって練習内容や進め方が異なるため、一定の基準や練習メニューの共有が求められています。生徒からは、新しい練習に戸惑う場面や、指導者に相談しづらいと感じることがあったとの声もありました。  
また、「もっと練習したい」という声と「他の活動と両立したい」という声が混在しており、無理のない活動日程の検討も必要な課題となっています。

## □ 今後の方向性について

\*本実証事業では、インフルエンザ流行の影響により、必ずしも十分な実施回数とはなりませんでしたが、部活動の地域移行に向けた重要な示唆や課題を確認することができました。

### 1 実証事業を通じて得られた成果を今後に生かします

- 学校・地域クラブ・事務局が連携して活動を進める中で、地域指導者が関わることによる指導の充実や、生徒同士の交流の広がりなど、地域移行の可能性を感じられる成果がみられました。これらは、今後の制度設計や運営体制を検討するうえで、重要な基礎資料として生かしていきます。

### 2 学校・地域に配慮した無理のない運営体制の整備を進めます

- 連絡体制の明確化や事務作業の役割分担、指導内容の共有などについては、地域クラブの運営団体が関係者間の調整や支援を行い、クラブが安定して活動できる体制づくりに取り組んでいきます。また、生徒や保護者が安心して参加できるよう、活動日程や費用面のあり方について協議していきます。

### 3 関係者が連携し、持続可能な地域クラブのあり方を検討していきます

- 今後も、学校、地域のスポーツ・文化関係団体、教育委員会が協力しながら、よりよいあり方を模索していきます。子どもたちの安心・安全を守りながら、持続可能なかたちでスポーツ・文化活動に取り組める環境づくりを進めていきます。

